

平成30年度  
学校評価報告書



学校法人四天王寺学園 四天王寺小学校

学校評価検討委員会

## 目 次

1.	はじめに（校長）	2
2.	建学の精神	3
3.	学校教育目標	4
4.	今年度重点目標 Plan 評価方法	5
5.	評価結果の分析と考察	6
6.	保護者アンケートの結果	16
7.	学校関係者評価	18

以上

## はじめに

学校の自主性・自律性が高まる上で、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展をめざすことが重要です。また、学校が説明責任を果たし、家庭や地域、関連校との連携協力を進めていくことが求められています。

文部科学省は、学校教育法を平成19年6月に改正し、第42条においては、学校評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めることを規定しました。また第43条においては、学校の情報提供に関する規定を新たに設けました。さらに、上記の学校教育法改正を受けて、学校教育法施行規則を平成19年10月に改正し、現在に至っています。

本校では、教育活動をはじめとする学校運営の状況について評価し、その結果についての説明責任を果たしつつ学校自ら改善を行っています。また、その結果に応じて設置者が必要な支援等を行い、本校における教育水準の向上・保証を目的とした学校評価システムの構築とそのさらなる充実・改善を図っているところであります。

また、今年度の評価においては、平成28年度に行った「変わる宣言」が具現化されていく中で、教職員の意識の高まりが見られ、今まで以上に厳しい目で自らの実践を評価している姿が浮かび上がる内容となっています。

平成21年4月開校の本校は、平成22年度に学校評価検討委員会を設け、学校評価をどのように導入するかについて検討し、平成22年度は「自己評価」を実施しました。平成23年度より、「自己評価」の内容を精査し、より実態に即した内容で評価項目を設定して実施してきました。また、平成24年度より、「学校関係者評価」として後援会実行委員会4役（会長、副会長、会計、会計監査）の皆様からの評価（ご意見）もいただいております。さらに平成26年度からは、保護者のお声を自己評価に反映させるべく、「保護者アンケート」を実施し、自己評価の充実に努めました。この学校評価により、児童がより良い教育活動を今以上に享受できるよう、学校運営の改善を図り、本校が益々発展することをめざしてまいります。

平成31年3月31日  
四天王寺小学校  
校長 吉田 晃

## ■ 建学の精神

学校法人四天王寺学園は、聖徳太子がすべての衆生を救わんとする大乘仏教の精神を具現化するために、推古元年（西暦593年）に四箇院の制度を取り入れた四天王寺を建立されたことに始まります。四箇院とは、貧しい人々を救済する悲田院、病人の治療にあたる療病院、薬を分け与える施薬院、仏を敬い、仏教の尊い教えを守って諸悪をなさず、善行を修め、仏の智慧をさとり、知識や技能を修得する敬田院をさします。

この四箇院の制は、1400余年連綿と受け継がれ、悲田院、療病院、施薬院は社会福祉法人四天王寺福祉事業団が継承し、敬田院の教育事業は学校法人四天王寺学園が引き継ぎ、今日に至っています。敬田院は、仏に帰依し悪をなさず他者のために善行を修め、自己の実現に努める人間形成の場です。すなわち「他者や物事の内に潜む善さを信じ、その実現を願うところに自己の善さの実現も可能となる（帰依渴仰）。そのためには人々や物事の善悪を思慮し、相互に省みることによって悪を断ち、善の実践に努める（断悪修善）。そのなかで共々の善さを実現することが可能となる（速證無上）。あなたにとっての善さは私にとっての善さであり社会への貢献は相互の善さを具現化する営みに他ならない。そのための思慮と省察の積み重ねにより他者と共に己の計らいを超えた生命のもとで生きる意味を覚りゆくところである（大菩提處）。」とされており、今も建学の精神として受け継がれています。

また、大正11年に吉田源應大僧正によって創立された「天王寺高等女学校」に始まるその長きにわたる中等教育、高等教育機関としての歴史と伝統のなかで、人間的人格形成に多大な影響を及ぼす幼少期の教育に寄与することが、社会に対して一層の貢献となることを確信し、四天王寺学園小学校が設立されるに至りました。

### 学園訓

- 一、和を以て貴しとなす
- 一、四恩に報いよ  
四恩とは  
国の恩  
父母の恩  
世間の恩  
仏の恩なり
- 一、誠実を旨とせよ
- 一、礼儀を正しくせよ
- 一、健康を重んぜよ



## ■ 学校教育目標

### 聖徳太子の「利他と和」の精神を礎に 志高く豊かな日本のこころを育む

建学の祖である聖徳太子の仏教精神を礎に、「知育」「徳育」「体育」と、古来より  
私たち日本人が大切にしてきたものの継承に重点をおいた教育に取り組みます。

#### 仏教精神を基盤にした普遍的価値を学ぶ人間教育

- ・ 真のエリートをめざした智慧と教養を身につける・・・・・・・・・・知
- ・ 自国の伝統や文化を理解し、誇りに思えるようにする・・・・・・・・知
- ・ 勤勉、誠実、謙虚な心を大切にする・・・・・・・・・・・・・・・・徳
- ・ 正しい振る舞いや正しい礼儀を実践する・・・・・・・・・・・・徳
- ・ 他者への優しさをもち、親や祖先を大切にする・・・・・・・・・・徳
- ・ 自然に対する畏敬の念をもつ・・・・・・・・・・・・・・・・徳
- ・ たくましい健康な心と体をつくる・・・・・・・・・・・・・・・・体

#### 宗教教育（礼拝・瞑想・宗教の時間）・教科指導・特別活動・生活指導



#### 体験を通して普遍的価値を知る

- ・ 文化や伝統を学び、継承する
- ・ 礼儀作法を学ぶ
- ・ 情緒を感じる
- ・ 武道に親しむ

総合的な学習の時間

特別活動（クラブ活動等）

#### 教科を通して知恵と教養を学ぶ

- ・ 読み、書き、計算の基礎技能  
と基礎的な知識を習得する
- ・ 思考力、判断力、表現力を伸ばす
- ・ 探究力を鍛え、人間的感性を  
高める

国語、算数をはじめとする

各教科・補習

#### 活動を通して心身を鍛える

- ・ 基礎体力を身につける
- ・ 協同的な行動力を習得する
- ・ 健康や安全に関心をもつ
- ・ 規範意識を身につける

保健体育・給食指導

特別活動・学校行事

## ■ 今年度重点目標 Plan

本校の教育活動において、前項に掲げた「建学の精神」、および「学校教育目標」に貫かれている仏教精神を基盤とした教育が、その運営から実践課程を通じて目標化され、取り組まれることが必要である。

そこで、「利他と和」の精神、すなわち「他者の利益を重んじ、お互い助け合う。」ことの大切さを児童育成の基本理念に掲げ、心の教育を充実させるべく、「Plan 1. ～ 9.」の重点目標を設定することとした。

1. 学校運営：教育目標の実現に向け、教職員が一丸となって学校運営に当たる
2. 仏教教育：仏教精神を生かした学習に取り組み、望ましい人格形成を図る
3. 学習指導：学習活動や行事運営の計画的な実施を心がけ、日々の授業の効果を高める
4. 入試広報：効果的な入試広報活動を行い、本校が求める児童募集をめざす
5. 健康教育：児童の健やかな成長に向けて、保健的・体育的な指導の内容を推進する
6. 生活指導：安全教育や集団づくりに取り組み、規律正しい生活習慣を確立する
7. 研究研修：教員の資質、授業力、指導と援助の質を向上させるため、研究・研修を深める
8. 人権教育：人権の保護と向上、いじめの実態等を把握し、適切な指導や未然防止に取り組む
9. 進路指導：児童や保護者のニーズに応える進路指導をめざす

## ■ 評価方法

今年度重点目標「Plan 1. ～ 9.」の達成度を検証するために、各重点目標に評価項目 Do を設け、以下のような形でアンケートを実施した。尚、経年比較を確認するため、質問内容は前年度とほぼ同じものを用いている。

- 1) 実施対象： 回答教員 実施数（21名）
- 2) 実施形態： 自己評価によるアンケート
- 3) 評価項目毎に4段階で評価し、分析と考察を行う  
A(当てはまる) B(やや当てはまる) C(あまり当てはまらない) D(当てはまらない)
- 4) 評価点算出式： $5 \times A\% + 4 \times B\% + 2 \times C\% + 1 \times D\% =$  評価点

教員の自己評価に加え、保護者アンケートの実施結果を掲載し、併せて関係者評価として学校関係者評価委員会の方々のご意見をまとめさせていただいた。

■ 評価結果の分析と考察

Plan 1. 学校運営：教育目標の実現に向け、教職員が一丸となって学校運営に当たる

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H30	H29
1	教育目標の実現に向け、児童の実態を考慮した計画を作成する。	20	75	5	0	410	401
2	小学校の教育理念や教育目標に基づく教育活動を行う。	24	76	0	0	424	413
3	教員の児童募集に対する意識を高揚させる。	10	85	5	0	404	380
4	管理職や教職員同士の相互理解や信頼関係に基づいて教育活動を行う。	33	38	19	10	365	370

Plan 2. 仏教教育：仏教精神を生かした学習に取り組み、望ましい人格形成を図る

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H30	H29
5	本校の教育目標に沿ったカリキュラムを作成する。	21	74	5	0	411	348
6	種々の宗教行事を指導に生かす。	10	57	33	0	343	321
7	宗教の時間（道徳）の指導時数を確保する。	25	60	10	5	390	439
8	宗教の時間を始め、教育活動全般を通して仏教精神を生かした指導を行い、望ましい人格形成に成果をあげる。	5	65	30	0	345	355

Plan 1. 学校運営：教育目標の実現に向け、教職員が一丸となって学校運営に当たる

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
1	評価も安定して向上しており、目標にそった計画作りに取り組んでいる。	担当学年での情報交換を継続し、個々の児童の実態把握に努める。
2	点数の向上からも、教育理念や教育目標の具現化に取り組んでいる。	年度初めの研修を効果的な共通理解の場とできるよう設定する。
3	アドミッションポリシーも定着し、教員の児童募集に対しての意識の高まりを感じる。	アドミッションポリシーの様々な具現化の共有を通してさらに意識を高める。
4	担当間では検討されていても、全体では伝達的になり十分な連携が行えていない。	管理職や教職員間のコミュニケーションを重視し、相互連携を心がける。

Plan 2. 仏教教育：仏教精神を生かした学習に取り組み、望ましい人格形成を図る

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
5	「利他と和の精神」に基づいたカリキュラムを実践できつつある。	今後も継続して実践していく。
6	評価点数が向上しているものの、宗教行事についての理解が十分浸透しきれていない。	中高の仏教科と連携しながら、宗教行事の内容を教員間で浸透させていく。
7	昨年度よりは評価点数が低下しているものの、概ね指導時数を確保できている。	今後も、指導時数が確保できるよう、行事を精査し、計画をたてていく。
8	内容は改善しているが、それ以上に教員の意識が高まっている分厳しい評価となった。	生活指導部と連携し、指導の理念や内容を具体化して教員間で共有する。



Plan3. 学習指導：学習活動や行事運営の計画的な実施を心がけ、日々の授業の効果を高める  
 教務（評価の目標点 400）

No.	項目【D○】	割合（％）				得点	得点
		A	B	C	D	H30	H29
9	効果的な教科、領域のカリキュラムを立てる。	24	76	0	0	424	360
10	適切な一日の校時計画を立てる。	40	60	0	0	440	400
11	授業を年間指導計画通りに進める。	20	75	5	0	410	379
12	チャイムと同時に授業を開始する。	48	43	9	0	429	421
13	丁寧な発問・質疑応答をする。	33	67	0	0	433	430
14	採用した副教材はすべて十分に活用する。	43	52	5	0	433	405
15	公平で正しい評価をする。	67	33	0	0	467	453
16	学力不振の児童に対して適切な指導と支援を行う。	15	70	15	0	385	421
17	個に応じた指導を行い、学力の向上をめざす。	25	60	15	0	395	405
18	妥当な年間行事計画を立てる。	15	65	15	5	370	405

Plan 3. 学習指導：学習活動や行事運営の計画的な実施を心がけ、日々の授業の効果を高める  
教務（評価の目標点 400）

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
9	カリキュラム総体に関してはほぼ完成しているが、教科・領域ごとの精査が必要である。	教科・領域ごとのカリキュラムの改善・改革を進める。
10	校時に沿って適切に教育活動が進められている。	今後も継続して取り組む。
11	ほぼ年間指導計画通りに進められている。	各教科が指導計画どおり進められるように、時間割の工夫等を行う。
12	チャイムを守る指導を継続的に行っているので、意識の高まりを感じる。	今後も継続して指導する。
13	児童の発達段階を意識しながら、主体的な学習活動を促す発問や助言に努めている。	学校としての基本的な「言葉がけ」のあり方を指導者が共有できるようにする。
14	指導時間や家庭学習を活用し、指導内容の定着を図るよう副教材を有効に活用している。	教科によっては十分とはいえない部分もあり、採択の再検討が必要である。
15	一人ひとりの学びの過程を大切にし、項目に沿った評価ができるように努めている。	今後も適切な評価を行うように努める。
16	補習の時間枠を廃し個別対応を進めたが、学力不振児への個別指導は十分とはいえない。	現行の体制を再検討し、手厚い個別支援のあり方を工夫し取り組む。
17	一人ひとりにきめ細かな指導・支援のさらなる工夫が必要である。	個を生かす教材教具の開発や評価を生かした個に応じた指導・支援の工夫に取り組む。
18	新カリキュラムを見越した年間行事計画の工夫が必要である。	新カリキュラムに対応し、行事計画の精査・改善・改革を段階的に進める。

Plan4. 入試広報：効果的な入試広報活動を行い、本校が求める児童募集を目ざす

教務（評価の目標点 400）

No.	項目【Do】	割合（％）				得点	得点
		A	B	C	D	H30	H29
19	効果的な広報計画、広報活動を行う。	35	55	10	0	415	420
20	適切な情報の発信（HP等）を行う。	37	53	10	0	416	433
21	入試において、本校が求める児童を適切に評価する。	0	55	45	0	310	353

Plan5. 健康教育：児童の健やかな成長に向けて、保健的・体育的な指導の内容を推進する

教務（評価の目標点 400）

No.	項目【Do】	割合（％）				得点	得点
		A	B	C	D	H30	H29
22	健康・安全・保健に関する、児童の発達段階に応じた年間指導計画に基づき指導する。	30	65	5	0	420	447
23	健康診断、健康観察、保健相談等により、健康保持、事故防止を適切に行う。	55	45	0	0	455	470
24	適切な教育相談、カウンセリングを行う。	32	58	10	0	411	425
25	体育行事を計画的かつ適切に実施し、児童の健康保持、体力向上に成果をあげる。	40	60	0	0	440	468
26	給食の食べ方やマナー、栄養指導といった食育指導を適切に行う。	5	70	25	0	355	405
27	正しい掃除の仕方を指導するとともに清掃用具の整備を行い、清潔で美しい学校づくりを行う。	25	75	0	0	425	430

Plan4. 入試広報：効果的な入試広報活動を行い、本校が求める児童募集を目指す

教務（評価の目標点 400）

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
19	オープンスクール参加者の多くが、受験・入学に結びつき、効果的な活動ができた。	保護者の生の声や具体的な児童の育ちを通じた広報を進めていく。
20	「四天王寺小アプリ」や「たいし子どもまつり」の特設ページによって広報できた。	HPを通してさらに児童の姿を伝えられる様充実させる。
21	多面的にその子の良さを見取るといった入試観を更に深く共有する必要がある。	「集団面接」の内容を検証・再構成し、受験生をさらに丁寧に見取るべく改善を図る。

Plan5. 健康教育：児童の健やかな成長に向けて、保健的・体育的な指導の内容を推進する

教務（評価の目標点 400）

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
22	健康・安全・保健に関する年間指導計画を作成し、健康教育を推進した。	児童の健やかな成長と発育を促すために、さらに実態に応じた指導の促進を図る。
23	健康診断等から適正な医療受診を進め、健康の保持増進に努めた。	児童の心身の健康観察を進め、健康の保持増進や事故防止につなげる。
24	保護者・児童の実態を考慮し、カウンセラーの活用を促した。	カウンセラー、学校、担任による組織的連携に一層努める。
25	体育的行事や授業の充実により、健康保持や体力・運動能力の向上に繋がった。	四天王寺体操、四天王寺リズム縄跳びの徹底を図りさらなる向上に努める。
26	給食指導の内容や方法にばらつきが見られた。一貫した給食指導が必要である。	給食指導の内容を細部にわたり点検し、全体での共通理解に努める。
27	分担場所が複数のため目が行き届かず、真剣に掃除が出来ていないときがある。	こころの教育としての「清掃」の意義について共通理解を図り、他クラス・他学年への指導も積極的に行う。

Plan6. 生活指導：安全教育や団づくりに取り組み、規律正しい生活習慣を確立する

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H30	H29
28	安全生活指導（防災訓練）を計画的に実施し、危機管理意識を向上させる。	43	57	0	0	443	474
29	交通安全指導が適切に計画・実施する。	43	57	0	0	443	450
30	学校のきまりや公共のルール、マナーを順守させる。	5	76	19	0	367	390
31	いじめや問題行動に素早く対応するとともに、未然に防ぐ指導を行う。	15	80	5	0	405	435
32	縦割り活動を計画的に実施し、異年齢集団の交流を行う。	21	79	0	0	471	485

Plan7. 研究研修：教員の資質、授業力、指導と援助の質を向上させるため、研究・研修を深める

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H30	H29
33	校内研修や授業研究会を行い、教員の資質を高める。	20	70	0	10	390	200
34	多様な学力観に対応できるよう研修を行い、授業改善に生かす。	10	60	30	0	350	225
35	いじめ問題を正しく理解し、適切な指導ができるよう研修を行う。	6	61	28	6	333	330
36	モジュールタイムの計画と運用を適切に行い、児童の学力向上に役立てる。	11	83	0	6	394	417

Plan6. 生活指導：安全教育や団づくりに取り組み、規律正しい生活習慣を確立する

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
28	計画的に実施を行った防災訓練等を通して、児童の危機管理意識は向上している。	訓練の中身をさらに充実させ、有事があった際の対応に生かす。
29	学期末に登下校班で話し合う機会を設けたところ、児童の意識が向上した。	話し合った内容を日々の登下校にもいかし、さらなる向上を目指す。
30	あいさつや持ち物、校内の過ごし方について徹底できていない部分があった。	教員間での共通理解を図り、児童への一貫した指導を徹底する。
31	事案が発生した場合には、いじめ防止対策委員会を設置し適宜対応できた。	集団づくりを系統的に指導できるような学年単位の指導計画を立てる。
32	毎週の集会やたいし子どもまつりなどを通して、異年齢集団の交流を図れた。	縦割り遠足など、より交流が図れる行事を検討する。

Plan7. 研究研修：教員の資質、授業力、指導と援助の質を向上させるため、研究・研修を深める

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
33	授業研究を伴った校内研修に関して、おおむね満足のいくものであった。	事前検討の場をより多く持ち、細やかな個々の資質向上を目指す。
34	教師主導型、講義型に偏りがちであり、研究成果を実践に活かしてきれていない面がある。	校外への研修にも積極的に参加し、多様な学力観への理解を広め深める。
35	個々の課題に対して丁寧な対応を目指し取り組んだが、研修は行えなかった。	研修の場を積極的に設定することで、さらなる共通理解に努める。
36	モジュールタイムへの意識が高まった分、一層有効な活用方法を模索している面がある。	瞑想・姿勢教育の意義を含め、日常生活意識の安定と深まりを目指す。

Plan8. 人権教育：人権の保護と向上、いじめの実態等を把握し、適切な指導や未然防止に取り組む

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H30	H29
37	児童の実態に即した人権教育の年間指導計画（内容・時数）を作成、実施する。	11	68	21	0	368	358
38	日々の教育活動に人権教育の成果を活かす。	15	80	5	0	405	395
39	児童間で人権侵害事象を起こさせない。	15	65	20	0	375	374
40	児童への人権侵害と思える言動を発しない。	37	42	11	0	429	450
41	教職員への人権侵害と思える言動を起こさせない。	38	52	5	5	414	411
42	いじめ防止等対策の組織を機能させ、いじめの防止早期発見・対処に役立てる。	11	83	6	0	394	396
43	心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるようないじめを認めない。	5	79	16	0	374	465

Plan9. 進路指導：児童や保護者のニーズに応える進路指導をめざす

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H30	H29
44	進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設ける。	38	50	6	6	411	407
45	児童に進路希望に沿った進路指導を行う。	33	45	11	11	378	379

Plan8. 人権教育：人権の保護と向上、いじめの実態等を把握し、適切な指導や未然防止に取り組む

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
37	人権教育年間計画を作成したが、計画通りに実施できたとは十分言えない。	道徳の教科書や副読本を活用し、さらに児童の内面に迫れるようにする。
38	人権教育で学んだ内容と日常生活との結びつきが強まってきている。	今後も積極的な推進を行う。
39	日々留意し指導しているが、相手を軽んじた発言や行動事例がいくつか見られた。	行事での関わりを含めて計画的に、より良い関係づくりを進める。
40	言動には十分留意し、子どもに寄り添った指導を行うよう努めている。	子どもに寄り添った言動を心がけ、教職員集団として継続して取り組んでいく。
41	子どもの立場を尊重した指導を心がけている成果が教職員同士に対しても見られる。	教職員に対する人権尊重の意識を大切にして継続して取り組んでいく。
42	懸案事案に対し、いじめ防止委員会において迅速に対応している。	いじめ防止のために今後も迅速に取り組む。
43	教職員の意識が向上した分、厳しい自己評価につながっている面がある。	児童間・教職員間のつながりをさらに深め、良好な関係づくりを進める。

Plan9. 進路指導：児童や保護者のニーズに応える進路指導をめざす

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
44	併設中学校の教員と打ち合わせを密にしてきたため充実して来たものと思われるが、なお課題が残る。	さらなる満足につながる様、進路情報を提供する機会と時期の検討を行う。
45	内部進学情報とともに、外部進学希望の児童への進路指導の充実が求められる。	外部中学への進学情報も充実させ、保護者のニーズに対応する。



■ 保護者アンケート集計 全校 83.4%

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料				得点 H30										
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D											
1	建学の精神に則り、学校運営がなされている	95	91	18	2	206	46	44	9	1	<table border="1"> <caption>資料 (Item 1)</caption> <tr><th>Category</th><th>Count</th></tr> <tr><td>1</td><td>46</td></tr> <tr><td>2</td><td>44</td></tr> <tr><td>3</td><td>9</td></tr> <tr><td>4</td><td>1</td></tr> </table>				Category	Count	1	46	2	44	3	9	4	1	425
Category	Count																								
1	46																								
2	44																								
3	9																								
4	1																								

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料				得点 H30										
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D											
2	仏教教育を基盤にした人間教育が学校教育基盤に根付いている	82	95	23	6	206	40	46	11	3	<table border="1"> <caption>資料 (Item 2)</caption> <tr><th>Category</th><th>Count</th></tr> <tr><td>1</td><td>40</td></tr> <tr><td>2</td><td>46</td></tr> <tr><td>3</td><td>11</td></tr> <tr><td>4</td><td>3</td></tr> </table>				Category	Count	1	40	2	46	3	11	4	3	409
Category	Count																								
1	40																								
2	46																								
3	11																								
4	3																								

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料				得点 H30										
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D											
3	確かな学力の定着に向けた教育課程が設けられ、工夫された授業が展開されている	74	94	31	6	205	36	46	15	3	<table border="1"> <caption>資料 (Item 3)</caption> <tr><th>Category</th><th>Count</th></tr> <tr><td>1</td><td>36</td></tr> <tr><td>2</td><td>46</td></tr> <tr><td>3</td><td>15</td></tr> <tr><td>4</td><td>3</td></tr> </table>				Category	Count	1	36	2	46	3	15	4	3	397
Category	Count																								
1	36																								
2	46																								
3	15																								
4	3																								

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料				得点 H30										
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D											
4	将来を見据えた教育環境や教育内容を創意工夫し、日々の教育実践に生かされている。	65	101	32	7	205	32	49	16	3	<table border="1"> <caption>資料 (Item 4)</caption> <tr><th>Category</th><th>Count</th></tr> <tr><td>1</td><td>32</td></tr> <tr><td>2</td><td>49</td></tr> <tr><td>3</td><td>16</td></tr> <tr><td>4</td><td>3</td></tr> </table>				Category	Count	1	32	2	49	3	16	4	3	391
Category	Count																								
1	32																								
2	49																								
3	16																								
4	3																								

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料				得点 H30
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D	
5	たくましい健康な体作りと健全な精神の育成がなされている。	63	108	31	4	206	31	52	15	2					395

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料				得点 H30
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D	
6	仲間作りを通して個性が尊重され、いじめのない人間関係の醸成がなされている。	56	102	37	10	205	27	50	18	5					376

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料				得点 H30
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D	
7	愛校心を育み、高い規範意識をもった子どもを育てている。	56	107	36	6	205	27	52	18	3					382

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料				得点 H30
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D	
8	児童やご家庭の実態と希望に応じた適切な進路指導がなされている。	68	93	36	6	203	33	46	18	3					388

## ■ 学校関係者評価

後援会実行委員会役員の方々より評価をいただきました。校内における自己評価の集計結果や日常の教育活動についてのご意見をまとめさせていただきました。

### 1. 学校運営・学年運営・学級運営

学級という枠にとらわれず、学年での活動も豊富に展開されているように思うので児童同士同じ時間を一緒に過ごしている仲間という意識も強いように思われます。また、縦割り活動に関しても学年の立場を十分に認識しながら周りのことを考える良い機会だと常々感じています。

学校運営は、子どもたちの自覚、成長、意識に基づいた上で成り立つものと考えていますので、子ども一人ひとりが四天王寺小学校の児童としての誇りを持って行動できることを大事にしていけるような教育を引き続きお願いしたいです。

### 2. 仏教教育

「ともいきタイム」「ともいきの集い」では、毎回よいお話を聞かせていただき、とてもいい経験をさせていただいていると意義深く感じております。全てを完全に理解できなくても、この小学生の時期に学んだことは必ず心に残っていくものだと思うので、子どもたちの理解度に沿ってこのようなことを学べるのはよい機会だと受け止めております。

### 3. 教務

保護者、クラス委員が学校に来て活動する機会が減って寂しく思っておられる方も多いと思います。“来たい”“子どもの様子が見たい”“子どもたちと活動したい”と願ってクラス委員になる方にとって学校行事への参画機会を確保していただける様をお願いします。

### 4. 入試広報

入試広報業務の重要性と繁忙さは、充分理解できます。教員の方々は本来の学校業務にも力を発揮していただきたいと思いますので、広報業務を専門にされる職員の増員、充当が必要ではないかと思います。

### 5. 健康教育

この分野は家庭での過ごし方や家庭での考え方によるものも大きいと思いますが、集団という場面での自分のあり方、考え方を改めて考える大事な機会でもあるので、引き続き大切に指導していただきたいと思います。

## 6. 生活指導

男子児童が女子児童に比べて少ないですが、その分男子間では他学年との交流もあり、とてもすばらしいと思いました。男子の数が少ないことで多学年との交流やみんなで仲良くできることなどの利点もあると思われます。また、パワーアップタイムにみんなで遊ぶことや先生方も一緒に遊んでくださることは仲間はずれなどが起きにくい取り組みでいいと思います。

持ち物、マフラーなどの衣類、くつ下の長さ、レギンスの禁止など決まったことが守られていない児童を見かけることも時にあり、改善の必要を感じさせられます。また、キャラクター禁止にも関わらずストラップなどキャラクターを持っている児童も見受けられます。校則をしっかり守って、学校のイメージを向上できるように指導の徹底をお願いします。

## 7. 研究研修

現2年生から CLIL も始まりとても良い状態で授業が進んでいると思います。1年生の当初と比べるとヒアリングの力がすごくついてきたように思われます。今は、自分の言いたいことがなかなか言えない場合に日本語が出てくるのが少し残念ですが、No Japanese のルールを通してだんだんと言葉が出てくるのではと期待しております。

## 8. 人権教育

今後の人間関係を築く上でも非常に重要な分野だと思えます。人と接することで傷つき、傷つける場面も全て学ぶチャンスとなるので様々なきっかけを通して貴重な体験を積んでほしいと考えております。その上で先生方には、気持ちの整理の仕方、考え方、乗り越え方の示唆を子どもたちに示し、導いていただきたいものです。困ったとき、失敗したときこそ人間の本質的な部分が出ると思われるので伸び伸びと試行錯誤できる場をこれからも大切にしていきたいと思えます。

## 9. 進路指導

もっと中学との関わりがあってもいいのではと思います。また、中学進学の際、外部受験する方にも併設中学校の受験ができるようにしてもいいのではないかと考えます。

外部受験の進路指導についても、中学年からさらに充実させてほしいと願います。

平成30年度

四天王寺小学校学校評価報告書

平成31年3月31日 発行

発行責任者 学校法人四天王寺学園

四天王寺小学校 学校評価委員会